

第4回三の丸尚蔵館の開館準備有識者会議議事要旨

【日 時】

令和5年1月30日（月） 10:30～11:30

【出席委員（五十音順）】

尾崎正明委員、黒川廣子委員、橋本麻里委員、松原茂委員、
宮崎法子委員

【議事要旨】

各議事について、委員からは主に以下の意見があった。

<（1）三の丸尚蔵館の名称について>

前回の有識者会議において、今までは宮内庁の三の丸尚蔵館であった。宮内庁から外れ、各国立博物館と並ぶ文化財機構の施設となるが、館の名称はそのままでいいのか、わかりにくくはないか、という意見があった。

これを受け、事務局より、立地や館の性格をわかりやすく示すために、日本語名称について、「皇居三の丸尚蔵館」とすること、英語名称について、「The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan」（変更なし）とすることについて提案があった。

<日本語名称について>

○事務局案がよいと思う。今まで「宮内庁三の丸尚蔵館」と通称されてきたが、今般の管理・運営の移管に伴い、立地が明らかになる。また、「三の丸尚蔵館」という名称を変更すると、各所で混乱を来す恐れもある。

○「三の丸尚蔵館」は一般的な言葉ではないものの、従来の実績から広く知られた名称であり、混乱を避けるためにも維持するべきと考える。また、現状だと日本各地のどの城の三の丸かわからないが、「皇居」を追記することにより、場所を特定できるので、事務局案に賛同する。

○英語名は、三の丸尚蔵館という固有名詞とその説明がカンマで区切

- られている。日本語名も、例えば「皇居 三の丸尚蔵館」のように、「皇居」と「三の丸尚蔵館」の間を一字空けるなど考えられるか。
- 一字空きとすると、「皇居」の追記が単に立地を示すだけのように見えてしまうし、省略されてしまうこともある。「皇居三の丸尚蔵館」と連続して記載すべきではないか。
 - 事務局案は、立地が明確になり、よりわかりやすくなる。

〈英語名称について〉

- 英語名は、日本語案の「皇居」と対応してはいないが、コレクションの性格を示しており、従来どおりでよいのではないか。冠詞の The をひとつ取るなどの修正が考えられるか。
- Sannomaru Shozokan を削除することも考えられるが、外国人が道を尋ねるときなどに必要な情報であると考えられる。The Art Museum とすることも考えられるが、館の名称がさらに長くなってしまうので、事務局案でよいのではないか。
- この名称で30年実施してきている。不都合な点はなく、混乱を来さないためにも、事務局案でよいのではないか。

〈（２） 有識者会議における主な意見（案）について〉

事務局から資料1について、説明があった。

- 三の丸尚蔵館の収蔵品については著作権がまだ残っているものがある可能性がある点は注意すべき。
- ColBase は手続きなく画像を使用できるというのがメリット。三の丸尚蔵館の収蔵品についてもそのような取り扱いとなれば意義のあることだと思う。
- 令和4年8月、国際博物館会議（ICOM）において、博物館の新たな国際的定義が採択され、多様性、包摂性などの概念が提唱された。このような情勢を踏まえて、館の方針を検討することも考えられないか。
- 「宮内庁との連携を引き続き密にしていくことが望ましい」という議論があったが、例えば楽部の協力を得て、館内での小規模な雅楽・洋楽の演奏、舞楽の衣装の着付けの実演など、展覧会と関連した催しが出来るのではないか。

- 三の丸尚蔵館の収蔵品は皇室との関係で作られたコレクションであるため、宮内庁内の他の機関との協力の中でより一層魅力が出てくるもの。単に立地や組織だけの関係でなく、皇室と切っても切れない関係にある。宮内庁が保有する資料を参照して収蔵品の研究が進むこともあると承知しているので、引き続き連携してほしい。
- 館の広報担当者が定期的に変わってしまうこともある。広報担当者が適切な広報を行うことができる環境を整えることが重要。

事務局より、予定された議題を今回の会議で全て終了した旨連絡し、閉会にあたり奥文化財鑑査官より挨拶があった。

(以上)